

ももこのビジョン2040

自然が豊かで みんなも豊かな 安心と協力の地域 とみあい

～人と人とのつながりで、今と未来を創りだそう～



令和2年2月

富合地区ふるさと創造会議「ももこの11(イレブン)」

“ももこのビジョン”の策定にあたって

加西市の中央部に位置する富合地区は、市内でも地理的・経済的・生活環境等において、比較的恵まれた地域であることから、将来の生活や地域に対する住民の危機意識があまり見られません。更に、少子高齢化、人口減少、核家族化、自営業の減少・サラリーマンの増加により勤労世代が昼間に生活エリアにいない等で、地縁的な繋がりが希薄化しつつあります。

このような課題に対応すべく、富合地区では“ももこの11（イレブン）”（富合地区ふるさと創造会議）を立ち上げ、住民主体の地域コミュニティづくり、地域の活性化に向けた活動を行っていますが、住民全体に浸透せず、一部の住民の参画による活動となりがちで、人まかせの状況を脱却できていません。

また、団体の中心的な役割を担う年代は60代～70代であり、若い世代の参画が得られにくい状況にあります。

そのため、富合地区の一人ひとりが、それぞれの個性と能力を活かして活躍でき、安心して元気に暮らせる地域を目指した「富合地区まちづくり計画（ももこのビジョン）」を策定することとしました。

策定にあたりましては、12歳以上を対象に全戸2部のアンケート用紙を配布し、回答していただき、更に、各種団体からのヒアリング調査や各町代表等にご参集していただいたワークショップ、小学5・6年生を交えたワークショップ等を重ねてきました。

地域の方々はもとより、兵庫県立大学環境人間学部の杉山武志先生とゼミ生の皆さん等、多くの方々に多大なるご協力を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

この“ももこのビジョン2040”は、20年後の2040年の富合地区の将来像を描きました。富合地区の地域性を活かし、地域内の住民が主役となった地域づくりを行う場や、地域の絆づくりのために気軽に誰もが話し合える場の提供、富合地区内の生産者と商工業者による特産品開発、地域の歴史・文化資源を活用したまちづくり等の方策を盛り込んでいます。

単に将来ビジョンを作ったというだけでなく、その実現に向け富合地区の皆さんが積極的に能動的に行動することを心がけることによって、『“笑顔”と“活気”あふれる「富合」』を合言葉に、富合地区の持続的発展に取り組んでまいりましょう。

富合地区ふるさと創造会議「ももこの11（イレブン）」
会長 仲井 正人

目次

第1章 ももこのビジョン 2040 について	1
1. ビジョン策定の趣旨	2
2. 「ふるさと創造会議」について	3
3. 本ビジョンの期間	3
第2章 富合地区について	4
1. 富合地区の概要	5
2. 数字からみる富合地区	7
3. 富合地区の取り組みの紹介	10
第3章 富合地区に暮らす方々の思い	11
1. アンケート調査の結果	12
2. ヒアリング調査の結果	16
3. ワークショップの結果	18
第4章 富合地区が目指していく将来のすがた	21
1. 実現したい将来のすがた（ももこのビジョン）	22
2. ももこのビジョンにこめられた「願い」	23
3. ビジョンの実現に向けて	24
資料編	26

第1章

ももこのビジョン 2040 について

- ビジョン策定の趣旨
- 「ふるさと創造会議」について
- 本ビジョンの期間

1. ビジョン策定の趣旨

近年は、人口減少や少子化・高齢化の急速な進行を背景として、まちの持続が難しいといった課題に全国の自治体が直面しています。また、高度成長期より始まった東京一極集中の動向は、「地方と中央」といった構図を更に強めており、東京や大阪などの大都市圏より外れた自治体は、その存続について深刻な状況に陥っています。

以上のような自治体運営の危機を背景として、加西市では、加西市における住民の主体的な参画と協働によって、持続可能なまちづくりを推進し、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現を目指すことを目的として、平成 25 年に「加西市ふるさと創造条例」を制定しました。現在市内 10 地区で、本条例に基づいた協議会である「ふるさと創造会議」が構成され、地域特性に応じた活動に取り組んでいます。

富合地区も、ふるさと創造会議の一地区として日々多様な活動を進めているところですが、今後の人口減少や少子高齢化に対応していくために、富合地区全体が丸となってふるさと創造会議を盛り上げていく必要があります。コミュニティとしての一体感を持ち、多様な世代が地域を盛り上げるため、富合地区の特性や課題を整理し、まちづくりの今後の方向性を示し、地域全体で共有することを目的として、「ももこのビジョン 2040」（以下「本ビジョン」といいます。）を策定しました。



2. 「ふるさと創造会議」について

■ふるさと創造会議（まちづくり協議会）とは

現在、地域では、自治会をはじめ民生委員やPTA、老人会、青少年健全育成会など様々な地域団体が活動しています。今後、更に多様化・複雑化していく地域課題に対応するためには、これらの団体の連携を強め、多くの地域住民の皆さんが話し合い、意見を出し、それぞれの地域団体が個別に活動していただくだけでなく、協働・連携して活動し、自分たちの地域に必要なことを「地域で決めて、地域で実行する」しくみが必要です。

「地域で決めて、地域で実行する」しくみの主体組織が、ふるさと創造会議（まちづくり協議会）です。

■ふるさと創造会議（まちづくり協議会）の単位

お互いに顔がわかり共通の話題が持てて関係づくりが容易であること、地域活動の単位として歴史があり地域住民になじみのある単位であることから、加西市では概ね小学校単位を基本として地域づくりを推進しています。

■ふるさと創造会議（まちづくり協議会）の構成

ふるさと創造会議（まちづくり協議会）は、地域内の各種団体や個人等で構成されています。実施する事業は、地域内に住む全ての住民を対象に行われます。

3. 本ビジョンの期間

本ビジョンは、2040年までに実現したい富合地区のすがたを示すものです。したがって本ビジョンは、基本的には2040年を目標年度としますが、必要に応じて見直しを行い、改訂する場合があります。

第2章

富合地区について

- 富合地区の概要
- 数字からみる富合地区
- 富合地区の取り組みの紹介

1. 富合地区の概要

(1) 位置と歴史

富合地区は、加西市の中央部から東に位置する地域であり、その範囲は富合小学校区と一致します。旧富合村をその前身としており、昭和 30 年に九会村と合併して旧加西町となり、昭和 42 年に旧北条町及び旧泉町と合併して現在の加西市となりました。現在富合地区は 11 の町によって成り立っており、都染町、別府西町、別府中町、別府東町、常吉町、朝妻町、豊倉町、玉野町、山枝町、玉丘町、青野原町が地区内に位置しています。

(2) 地域特性

富合地区は平野が多く、農業が盛んな地域です。地区内には大区画優良農地のほか、JA 兵庫みらい本店、カントリーエレベーター、愛菜館、県立農業大学、県農業改良普及センター、県農林水産総合技術センターがあり、加西市における農業の中心地となっています。また、地区内には加西産業団地や加西東産業団地もあり、ものづくりをはじめとした商工業も営まれています。

そのほか公共施設として、アラジンスタジアムや玉丘史跡公園、県立フラワーセンターがあり、スポーツや文化、観光を楽しめる場所でもあります。

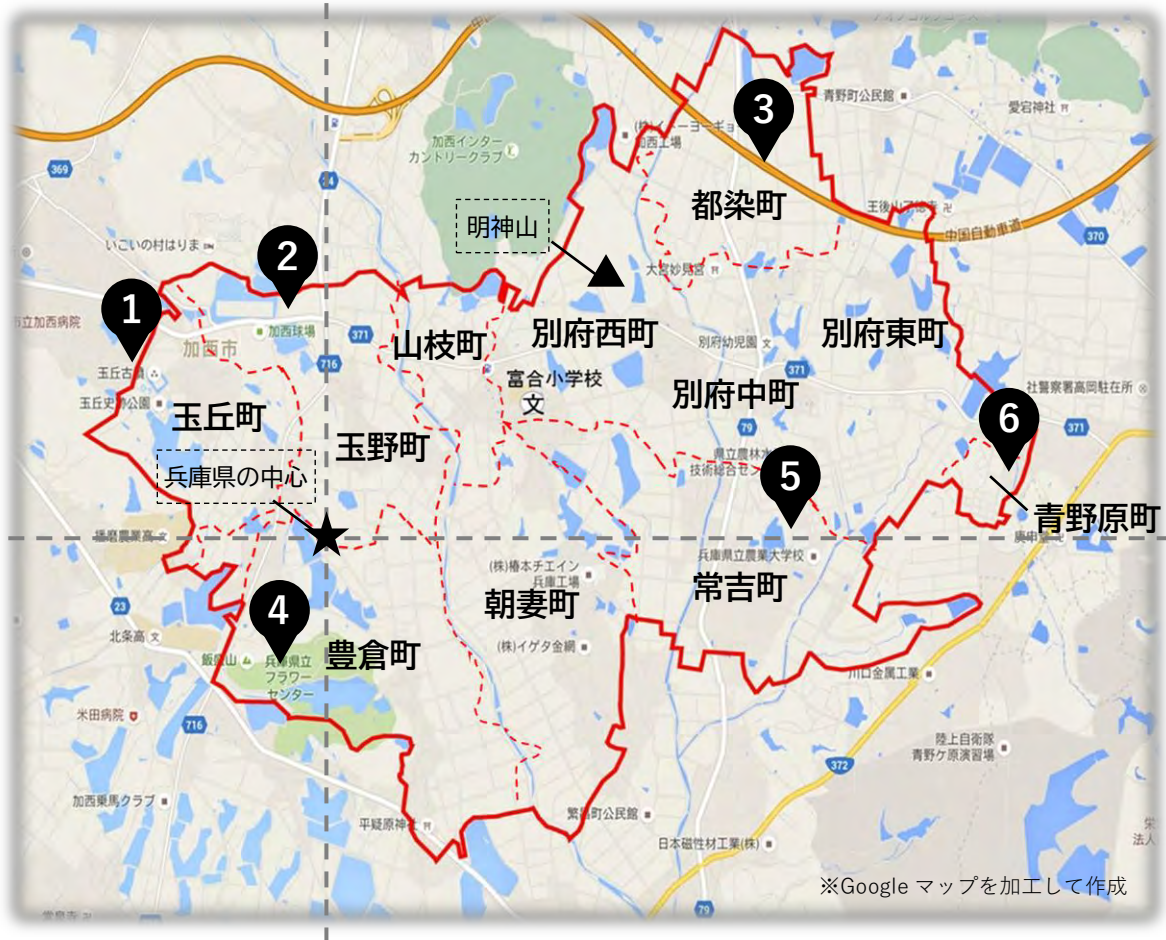
(3) 歴史・文化財

国指定史跡である玉丘古墳をはじめ、県指定文化財の山伏峠石棺蓋石、市指定文化財の山伏峠石仏、薬師寺石造五輪塔、玉野石仏など、いわれのある史跡や文化財が数多く存在しており、播磨地域の歴史を体感できる文化的情緒のある土地です。

(4) 交通アクセス

東西に県道高岡北条線、南北に県道玉野倉谷線、高砂加古川加西線が走っており、市内では数少ないバス路線が残っています。加西インターチェンジ、滝野社インターチェンジにも近く、利便性に優れています。

■富合地区の地図と地域資源の紹介



富合地区にはこんな地域資源があります！



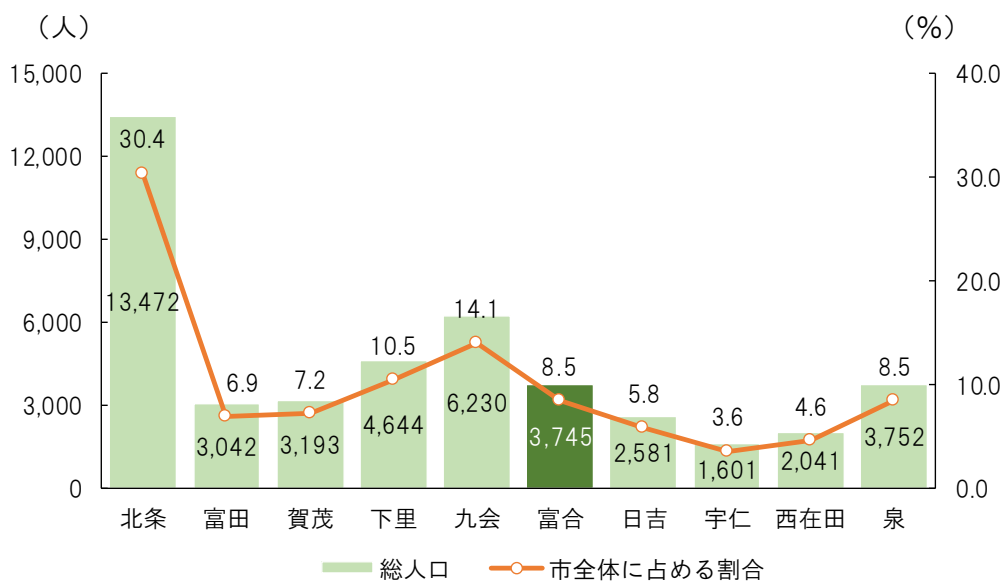
2. 数字からみる富合地区

(1) 加西市全体からみる富合地区

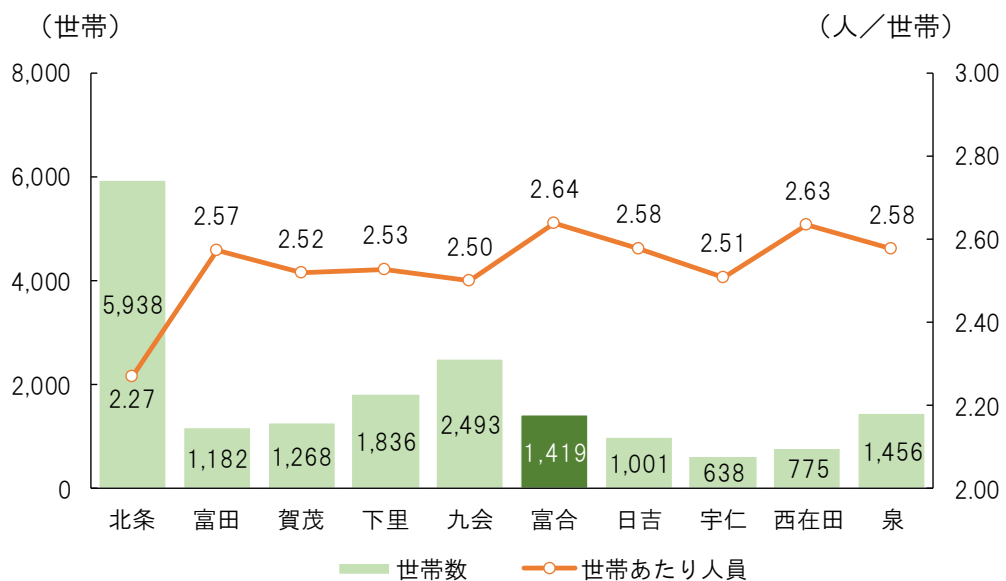
●富合地区の総人口は約 3,700 人で、比較的人口規模の小さな地区となっています。また、約 1,400 世帯が所在しており、市内でもっとも世帯あたり人員の多い地区となっています。



▼各地区の総人口と市全体に占める割合



▼各地区の世帯数と世帯あたり人員



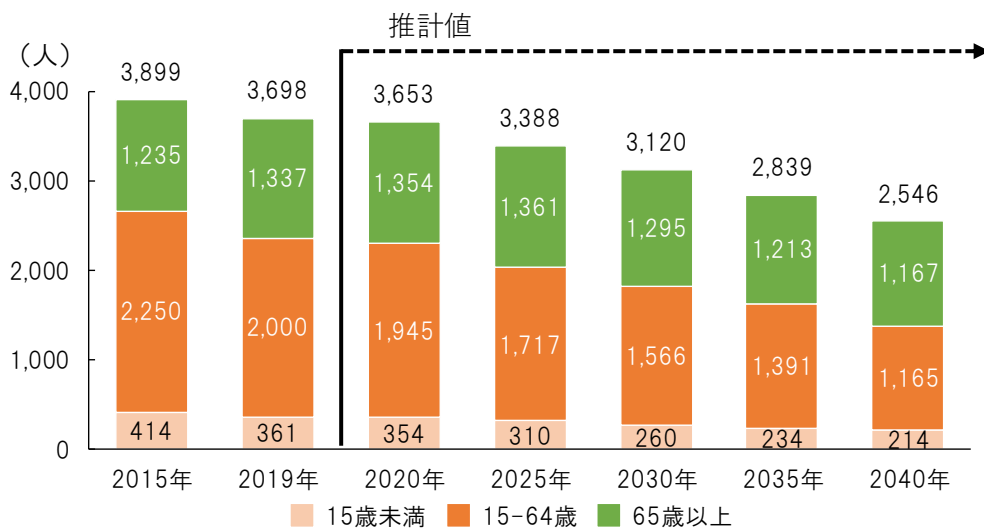
資料：加西市住民基本台帳（平成 31 年 3 月末時点）

(2) 総人口の推移と推計

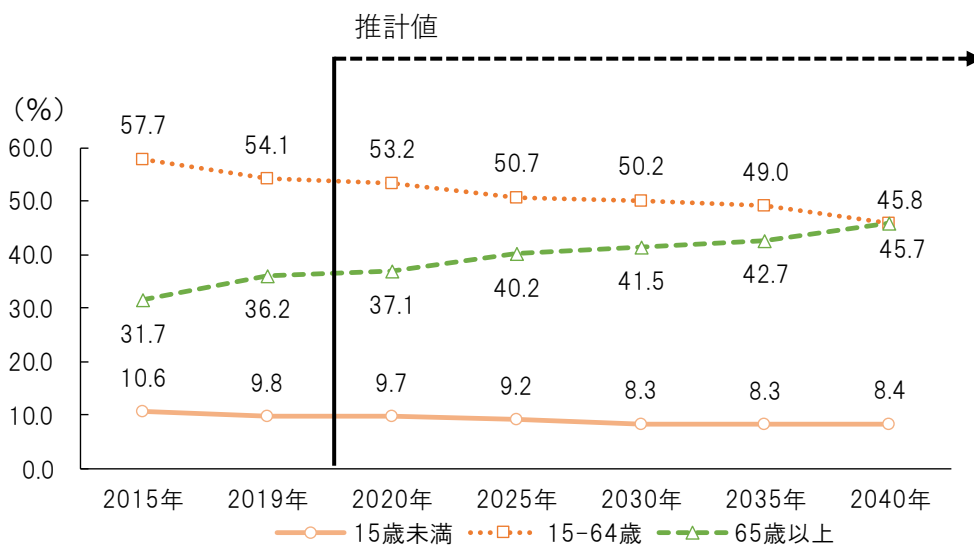


- 富合地区の総人口は減少傾向にあり、2019年時点では3,698人ですが、2040年時点では2,546人と1,000人以上の減少が予測されています。
- 2019年時点の高齢化率は36.2%です。高齢化率は今後とも上昇を続け、2040年時点では生産年齢人口と逆転する見込みとなっています。

▼年齢3区分別人口の推移と推計



▼年齢3区分別人口割合の推移と推計



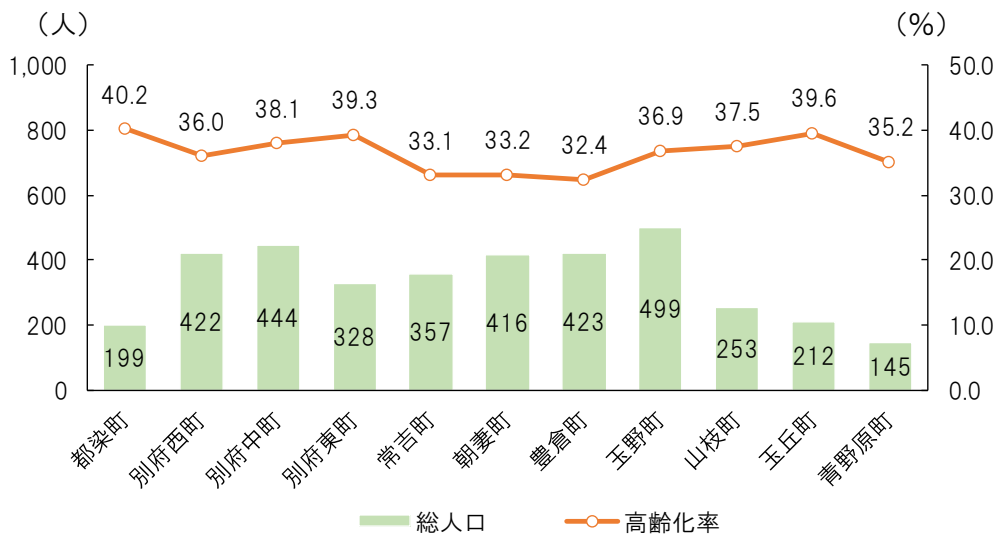
資料：加西市住民基本台帳（各年9月末時点）※推計値部分はコーホート変化率法によって算出

(3) 地区内各町の人口の状況（令和元年9月末時点）

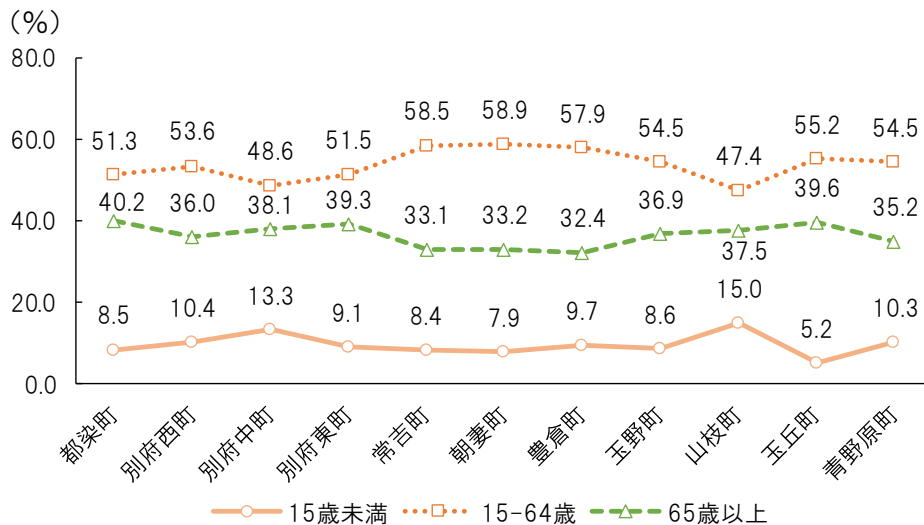
- 各町の総人口については、玉野町が499人と最も多く、青野原町が145人と最も少なくなっています。高齢化率については、都染町で40%を超えています。
- 別府中町や山枝町では15歳未満人口の割合が13%以上で、他の町よりも高くなっています。



▼各町の総人口と高齢化率



▼各町の年齢3区分別人口割合

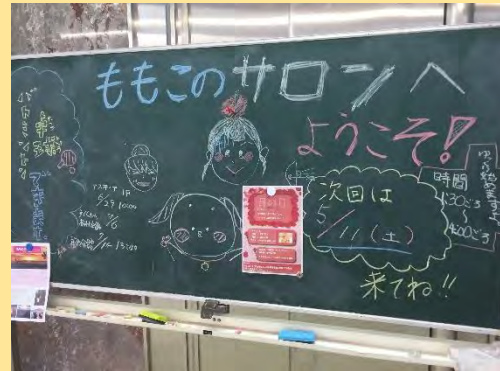


資料：加西市住民基本台帳（令和元年9月末時点）

3. 富合地区の取り組みの紹介

多世代交流の場の提供

富合会館を拠点として定期的に「ももこのサロン」を開催し、ものづくり教室やスポーツ大会の開催、夏休みの宿題のお手伝いなど、子どもから高齢者まで、様々な年代の方々が関わることのできる場を提供しています。



まちづくり井戸端会議の開催



富合地区で暮らす方々の新しい関係づくりや活動の促進など、地域の絆を深めることを目的として、誰でも、どんなテーマでも気軽に話し合うことのできる「まちづくり井戸端会議」を開催しています。

富合地区の文化を伝える活動の実施

富合地区には、玉丘史跡公園や明神山古墳、青野原俘虜収容所など、歴史文化遺産が数多く残っています。富合地区の魅力を多くの人に感じていただくだけでなく、平和学習の機会として、イベントや講演会などを実施しています。



第3章

富合地区に暮らす方々の思い

- アンケート調査の結果
- ヒアリング調査の結果
- ワークショップの結果

1. アンケート調査の結果

(1) 調査の概要

- 調査対象者：富合地区在住の中学生以上の方 2,300 名
- 調査期間：令和元年7月31日（水）～令和元年8月20日（火）
- 調査方法：直接配布・隣保長を介した回収

調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
合計	2,300 件	1,216 件	52.9%

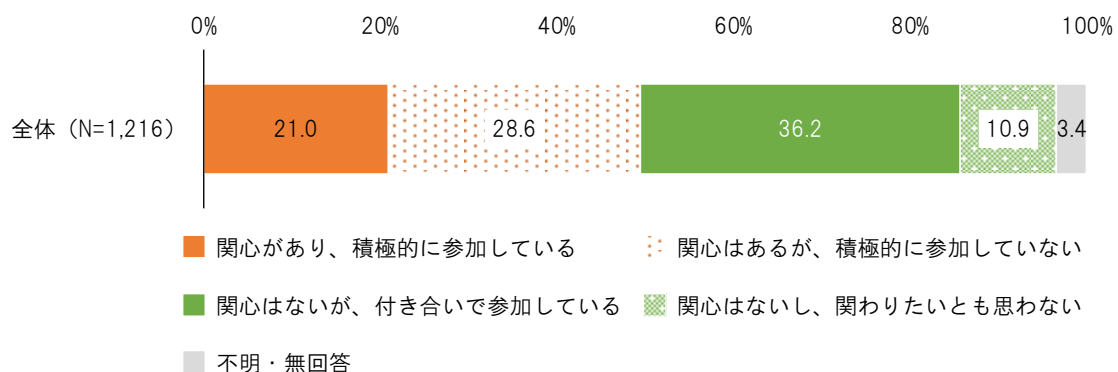
(2) 調査結果

① 地域活動への関心について



- 全体でみた場合、約半数が『関心がある』（「関心があり、積極的に参加している」「関心はあるが、積極的に参加していない」の合算）と回答しています。
- 「関心はないが、付き合いで参加している」の回答割合が最も高くなっています。

▼地域活動に対する関心（全体）

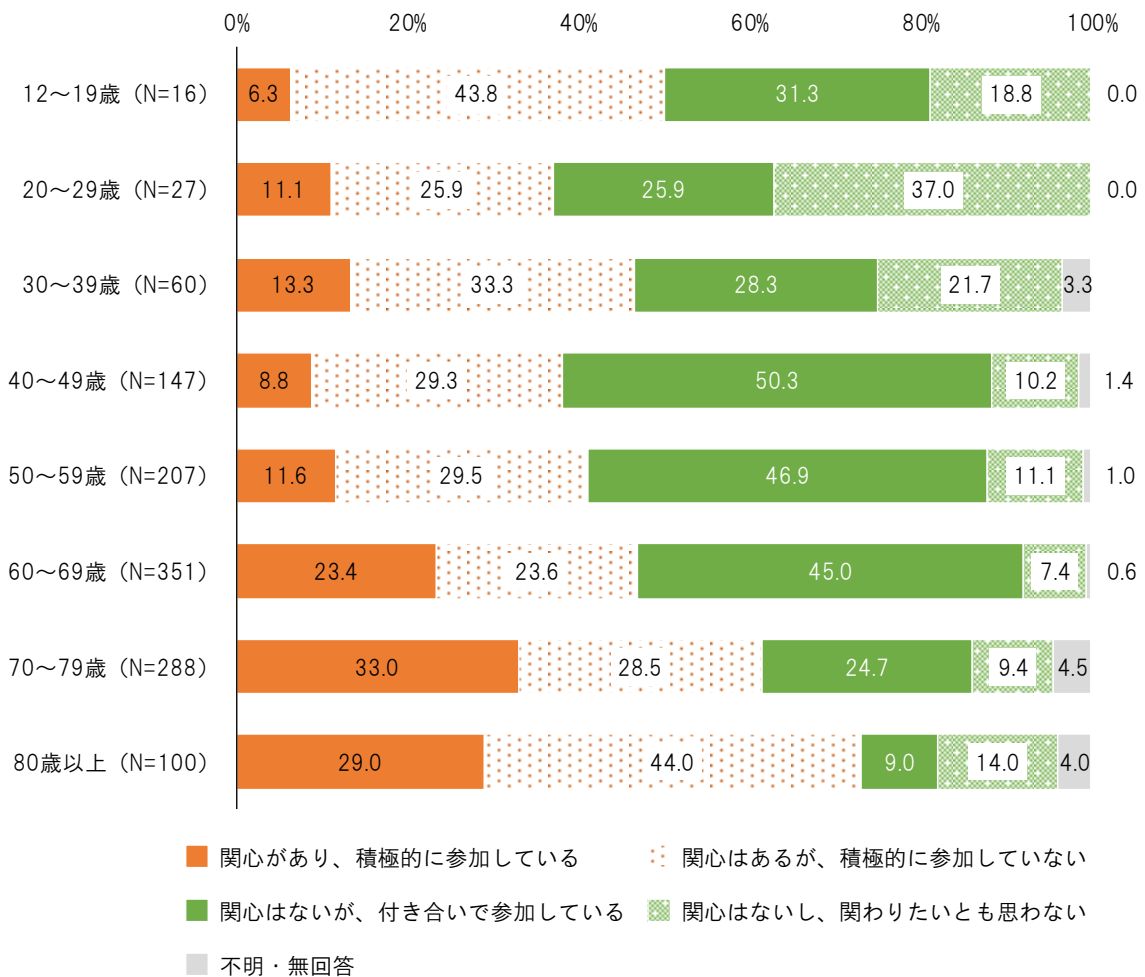


② 年齢別でみる地域活動への関心について

- 年齢が上がるにつれて『関心がある』の回答割合も上昇する傾向にあることがわかります。一方で、40歳代から60歳代において「関心はないが、付き合いで参加している」の回答割合が高くなっています。
- 若い世代にも一定の参加意向がみられ、特に30歳代では「関心はあるが、積極的に参加していない」が約33%と、ほかの年齢層と比べて高い回答割合を示しています。



▼地域活動に対する関心（年齢別）

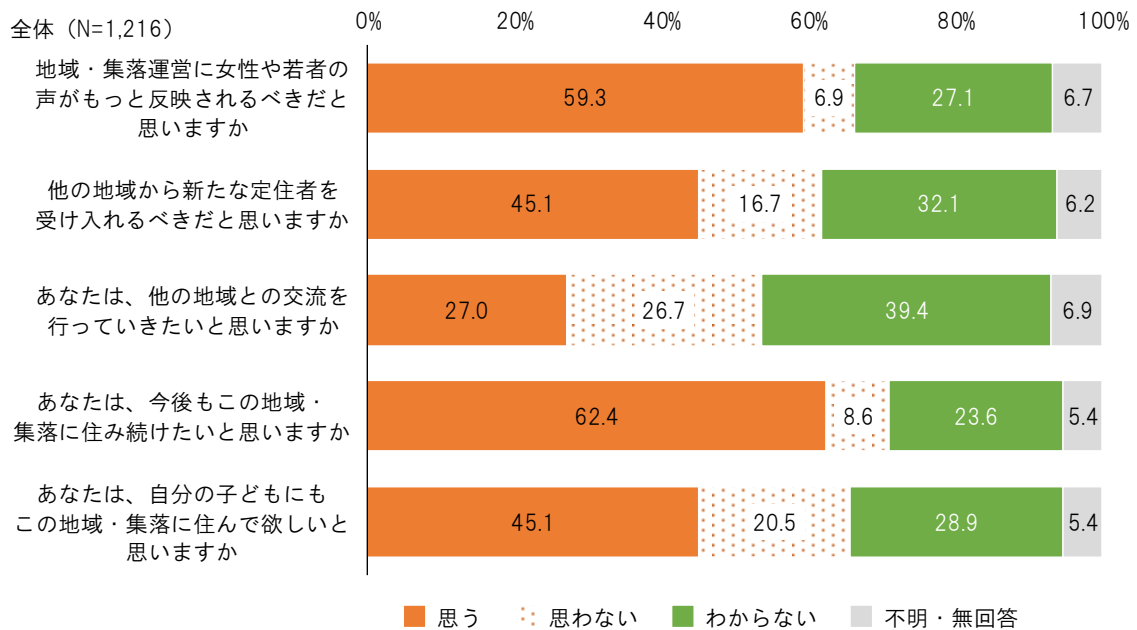


③ これからの地域・集落のあり方について

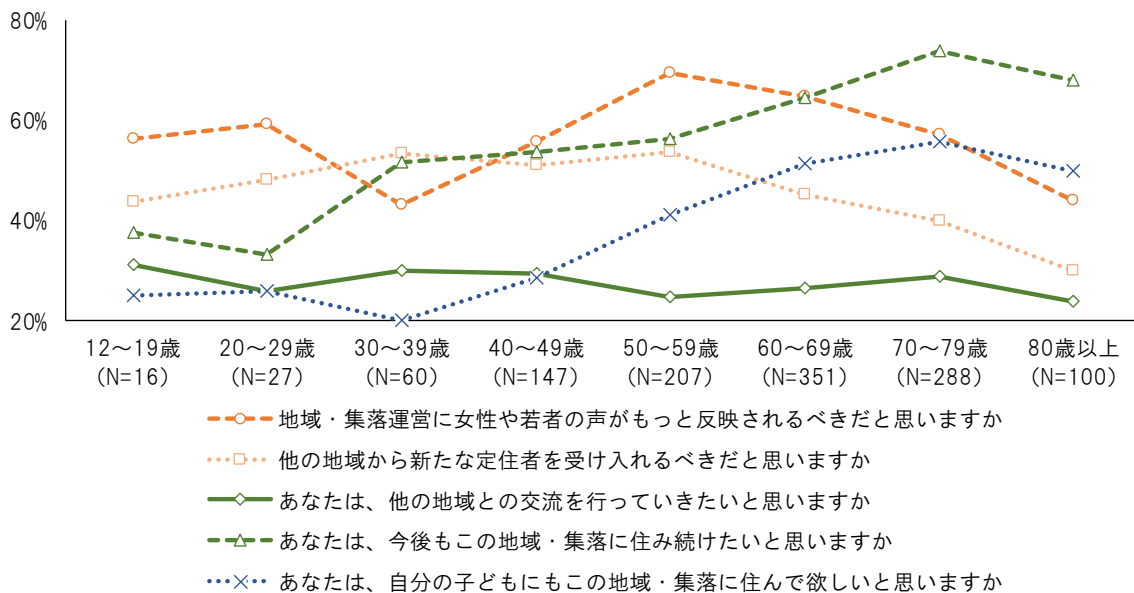


- 女性や若者の声をもっと反映されるべきである、今後もこの地域・集落に住み続けたいという回答の割合が特に高くなっています。
- 年齢別で見ると、年齢の高い世代ほど住み続けたい・子どもに住んでほしいという回答が高くなる傾向がみられます。一方、30～50歳代で、他地域からの定住者を受け入れるべきという回答割合が高くなっています。

▼ これからの地域・集落のあり方について思うこと（全体）



▼ これからの地域・集落のあり方について思うこと（「思う」のみ、年齢別）

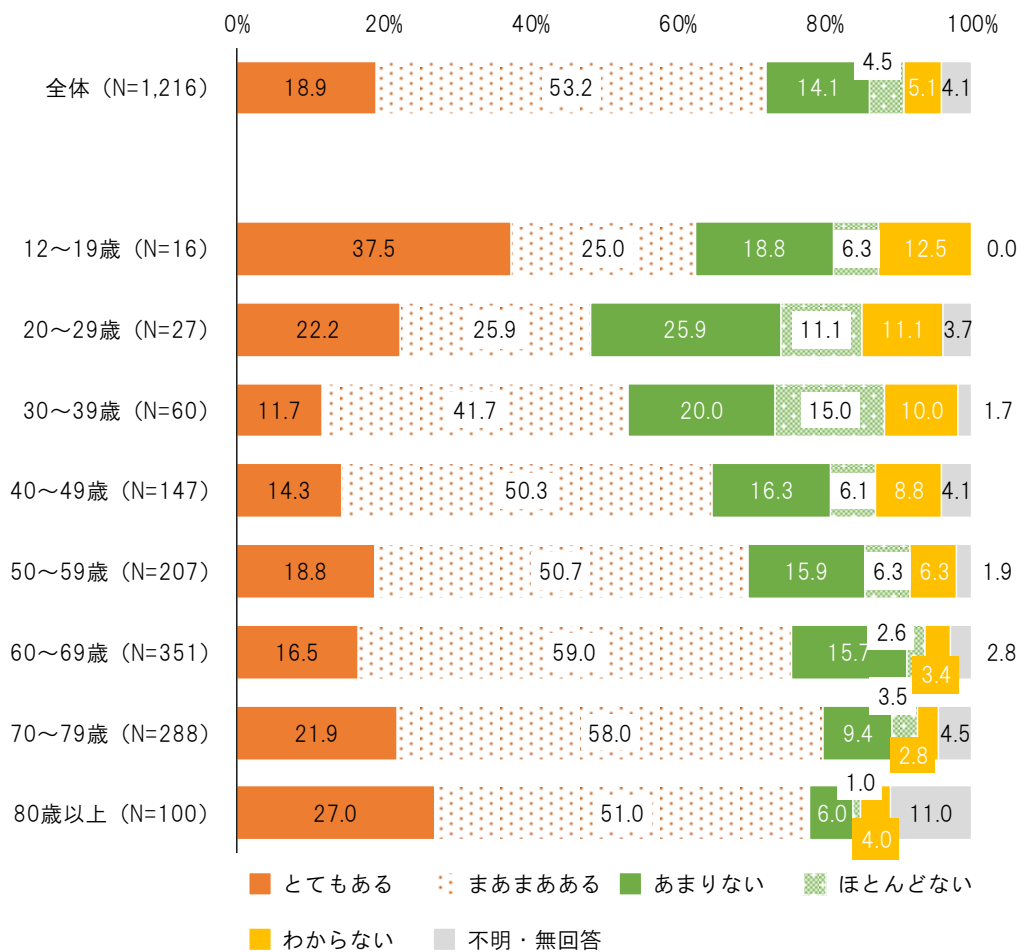


④ 地域や集落に対する愛着について

- 地域や集落に対する愛着については、全体では『ある』(「とてもある」「まあまあある」の合算)が7割以上で高くなっています。
- 年齢別で見ると、20～30歳代で『ある』が低く『ない』が高くなっている一方で、40歳代以上からは徐々に『ある』が高くなっています。



▼自分の住む地域・集落に対する愛着（全体・年齢別）



2. ヒアリング調査の結果

(1) 調査の概要

- 調査対象者：富合地区において活動している方（下表参照）
- 調査期間：令和元年8月10日（土）
- 調査方法：面談による聞き取り

本調査の実施にあたっては、以下の方々にご協力いただきました。

- | | |
|---------|-------------|
| ○PTA | ○区長会 |
| ○消防団 | ○民生委員 |
| ○営農組合 | ○老人クラブ |
| ○NPO 法人 | ○認定こども園 |
| ○駐在所 | ○ももこのサロン参加者 |

(2) 調査結果

聞き取りによる調査結果の一部を抜粋しています。

富合地区の自慢できるところは
なんですか？

- アクセスがよく、まちの中心地に近いこと
- 各種団体の活動が熱心！
- 助け合いができる人々が多い！
- 地域全体で仲が良いと感じる。人間性がよく、人材に恵まれているところがポイント！
- 平和なところ。のんびりしている。せかせかしていない。時間の流れがゆっくり



富合地区にどんなものがあれば
よいと思いますか？

- 子どもの居場所として、図書館みたいな公共施設や遊べる公園があれば…
- レストランを併設した道の駅をつくり、富合地区でつくった農作物を販売したり、料理を提供するとよいのでは？
- 交通の便は大切。高齢者は買い物も通院も不便だから…



子どもたちが安心して暮らせる
富合地区とはどんなすがたでしょうか？

- 高齢者をはじめ、富合で暮らす方々がしっかり見守っている地域であってほしい
- 年齢問わず、子どもたちが遊べる場所が充実していることが大切だと思う
- 昔のことを子どもたちに伝えていくためにも、多世代交流が盛んな地域だとよい



住みやすく、暮らしやすい富合地区の
すがたを教えてください。

- 今の富合地区でも十分暮らしやすいと思っている
- やっぱり交通の便がもっとよくなれば…
- 公園など、子どもが遊べる場所がたくさんある地区になってほしい
- いつまでもご近所や地域での付き合いが活発であってほしい



ご協力いただき、ありがとうございました！

3. ワークショップの結果

(1) ワークショップの実施概要

- 開催日：令和元年9月28日（土）
- 開催場所：別府西町公民館
- 実施テーマ：
 - ① 2040年の富合はどうなっていてほしい？
 - ②A 次世代を考える－どんな富合っ子に育ててほしい？
 - ②B 高齢者の暮らしのあり方を考える－何が問題でどうしたい？
- 参加人数：30人

■ワークショップの様子



(2) ワークショップの実施結果

ワークショップにおいて挙げられた、主なご意見を掲載しています。

① 2040年の富合はどうなっていてほしい？

風景	ひと
<ul style="list-style-type: none"> ● 自然豊か、田園風景が残っている ● きれいな池が広がっている ● 共同で農地や空き地を管理している ● おしゃれな店がある ● 街並みがカラフルである ● 自然エネルギーの活用 ● 稲穂が青々と秋には黄色く ● 田畑が多くなって農業発展 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校が複数クラスであってほしい ● 依然として強い地域の結びつき ● 若い人が多くいる ● 移住しやすいまちに向けた取り組みが進んでいる ● 外国人との共生 ● 三世代交流が活発 ● 人はあまり変わらなくてよい ● 子どもが多く、女性も多く強く
仕事	教育
<ul style="list-style-type: none"> ● 産業団地があり、雇用が拡大している ● IT化が進み業務量が減る ● 内職をいつまでもしたい ● 工業団地が増えている ● 在宅で仕事をする ● まず仲良しグループで協働する ● 誇れる企業がある ● 多様な仕事があってほしい ● 農業が維持されており、食の自給自足ができる ● 営農組合が農業組合の最先端になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小中一貫教育が進められている ● のびのびとした教育がされている ● 自然との対話ができる教育 ● 小さい子どもも英語で会話している ● 学校にスクールバスで登校 ● 大学の誘致 ● 地域で子育てができる ● 自由な考え方をする人を育ててほしい ● 子どもが帰宅後などに一緒に居られる場所がある



②A 次世代を考える－どんな富合っ子に育ってほしい？

富合っ子の魅力（現状）	富合小学校の魅力（現状）
<ul style="list-style-type: none"> ●あいさつのできる素直な子 ●他学年同士でも仲が良い ●子どものやさしさ ●低学年への思いやり ●素直、まじめ 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然豊かな学校である ●子ども全員に先生が目が行き届いている ●子どもの顔が見える、仲良くしやすい ●保護者同士の仲が良い ●地域と連携した教育
富合っ子に引き継ぎたいこと	未来の富合っ子へのお願い
<ul style="list-style-type: none"> ●素直で元気でいてほしい ●地域での仲間意識を持っていてほしい ●地域に残り、行事を継承してほしい ●地域に誇りを持ってほしい ●地域の再発見 	<ul style="list-style-type: none"> ●郷土愛を忘れないでほしい ●助け合う気持ちを忘れずに ●社会を元気に生きてほしい ●自然環境を守ってほしい ●地域を守り愛し続ける ●富合地区を好きでいてほしい ●時代を創るリーダーに！

②B 高齢者の暮らしのあり方考える－何が問題でどうしたい？

富合での生きがい（現状）	これからの心配事（現状）
<ul style="list-style-type: none"> ●人が温かい ●孫と暮らす、孫の世話 ●地区のつながり ●人のためのボランティア ●役割がある ●貯金通帳をながめる ●スポーツを通じて助け合い 	<ul style="list-style-type: none"> ●一人暮らし高齢者の増加 ●次世代への引継ぎ ●後継者が不足していること ●車の運転ができなくなること ●閉じこもっている老人が多い ●買い物難民 ●健康な状態で農作業ができるか
次世代に引き継ぎたいこと	10年後の自分へのお願い
<ul style="list-style-type: none"> ●人と人とのつながり ●自分からあいさつできる子 ●近所付き合いの大切さ ●田園風景の維持 ●地域の行事を継続・維持 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康で長生き ●少なくとも妻とは一緒にいたい ●好かれる老人、嫌われない老人 ●子どもや孫と旅行したい ●地域の役に立つ ●何事も自分自身で楽しむ

第4章

富合地区が目指していく将来のすがた

- 実現したい将来のすがた（ももこのビジョン）
- ももこのビジョンにこめられた「願い」
- ビジョンの実現に向けて

1. 実現したい将来のすがた（ももこのビジョン）

今を生きる私たちは、時代の流れとともに育まれてきたこの地区を受け継ぎ、また次の世代へつないでいかなければなりません。しかし、急激な人口減少や少子高齢化により、加西市全体の持続可能性が危ぶまれる中、富合地区においても、住民同士のつながりが希薄になりつつあり、もしかすると今後、地区から子どもがいなくなってしまうこと、これまで大切にしてきた歴史文化の維持が困難になることなどが危惧され、富合の魅力が失われてしまうかもしれません。

こうした状況を打開していくためには、行政による取り組みも重要ですが、地域で暮らす市民一人ひとりが危機感を持ち、「自分が親しんだ地域が今後も続いていくために、何をしなければならないか、何ができるのか」を考えていくことも同じくらい大切なことです。

富合地区では、そのような危機的状況を打開するために、将来に向けて富合地区はどのような方向性で進むべきか、どのような地区になりたいかを富合地区で暮らす住民が集まり、検討を重ねてきました。また、大学生の協力も得ながら、アンケート調査やヒアリング、ワークショップを行い、幅広い意見収集にも取り組んできました。

そして、これまでの検討の結果や各種調査の結果をもとに、子どもから高齢者まで、すべての世代の人々が、富合地区を好きになり、富合地区に住み続け、安心して最期まで暮らすことができる地区を実現できるよう、今後富合地区が目指していくべき将来のすがたである「ももこのビジョン」を、以下のとおりに決めました。

**自然が豊かで みんなも豊かな
安心と協力の地域 とみあい**

～人と人とのつながりで、今と未来を創りだそう～



2. ももこのビジョンにこめられた「願い」

アンケート調査やヒアリング、ワークショップの結果を踏まえ、富合地区で暮らす方々の、将来に対する「願い」を整理しました。

子どもが 生き活きと 遊べる地域

自然豊かな土地で、地域で暮らす大人たちに見守られながら成長できることが、富合地区で子どもを育てることの魅力である一方、子どもたちがもっと生き活きと遊べるような地域になってほしい、というご意見が多くみられます。放課後などに、子どもの居場所となるような機会を大人たちが提供していくことが求められています。

高齢者も 最期まで 元気な地域

地域や農業で活躍している高齢者が多いことが富合地区の特徴ですが、高齢化が進行する中で、将来的には元気な高齢者が一気に要介護に移行することが懸念されます。現在も開催されているサロンなど、高齢者の居場所となる機会を継続的に提供し、生きがいつくりを通じて、最期まで自分らしく暮らせるような地域づくりが求められています。

つながりが いつまでも 続く地域

富合地区の最大の長所は、地域で暮らす方々の強いつながりです。一方で、年代によって地域活動に対する意識も異なっていることや、普段の仕事が忙しくてなかなか参加できない、という方も一定数いる中で、地域のつながりをいつまでも保っていくために、地域で暮らす方々のライフスタイルに応じた地域活動のあり方を検討していくことが求められます。

3. ビジョンの実現に向けて

(1) 「自助・互助・共助・公助」の考え方

本ビジョンを進めていくためには、行政が提供するサービスだけでなく、地域住民も自分たちの役割を自覚し、お互いに連携しながら力を合わせて地域づくりを推進していく関係性を構築する必要があります。

以上のような関係性を構築する上で、重要となってくるのが、「自助・互助・共助・公助」の考え方となります。

■自助・互助・共助・公助のイメージ

普段の暮らしの中で、
自分でなんとかできること

自助 自分自身や家族による準備・支え合い



- 普段から地域行事に参加しています
- 防災グッズを準備しています
- 一日 8,000 歩の運動をしています など

地域で力を合わせれば、
解決できそうなこと

互助 ご近所や地域団体（民生児童委員やボランティア団体など）による支え合い



- 地域の見守りやパトロールを行っています
- サロンなど集まりの場を開催しています
- 行政ではカバーしきれない、日常生活のサポートを行っています など

公的機関による支援が、
どうしても必要なこと

共助・公助 行政などによる、自分や地域では解決が難しい問題への対応への支援



- 40 歳以上の方から介護保険料を徴収し、これに基づいて介護保険サービスを提供します
- 経済的に困窮している方に対して、復帰に向けた各種支援を実施します など

(2) 今後のまちづくりの方向性

ももこのビジョンの実現に向けて、以下のような取り組みを推進していきます。

①住民の思いや活動が実現できるまち“富合”

富合地区で暮らす人々が、地域の中で協力し合いながら自分自身の想いを実現するために、住民活動をしやすい環境づくりや住民同士の交流促進などに取り組みます。



- 住民が活動しやすい環境(ハード・ソフト)の創造
- 多種多様な住民活動、グループ活動、サークル活動
- 様々な年代の活動
- 子どもから高齢者までの交流の促進
- いつでも気軽に集える、立ち寄れる場の創設
- 「ももこの11(イレブン)」の活動拠点の整備
- 活動を支援するアドバイザーの養成
- 高齢者等、交通弱者の外出支援

②地域の宝が美しく輝くまち“富合”

歴史文化遺産や農産物など、富合地区の地域資源を最大限に活かし、誰もがファンになる魅力的な地域づくりを進めていきます。



- 富合地区の様々なジャンルの資源みがき
- 玉丘古墳や青野原俘虜収容所跡等の歴史文化遺産を活用した富合地区の活性化
- いちご、トマト、ゆず、山田錦、甘酒等、富合地区の農産物の特産品化
- 住民の富合地区への愛着と誇りの醸成

③誰もが主役になれるまち“富合”

自分が地域の未来を担うという使命感を持ち、地域活動への主体的かつ積極的な参画の意識づくりを進めていきます。



- 一人ひとりが役割を担い、使命感を持って生き活きと暮らす意識づくり
- 地域への関わり意識の醸成
- 受動的関わりから能動的・主体的関わりへ

資料編

1. 用語解説

◆高齢化率（こうれいかりつ）

ある地域の総人口に対して、高齢者が占める割合のこと。一般的には 65 歳以上を高齢者と定義し、総人口に占める 65 歳以上人口の割合を高齢化率として示すことが多い。

◆コーホート変化率法（こーほーとへんかりつほう）

ある地域の将来における人口を推計する手法のひとつ。現在の人口増減の傾向が今後も続くという想定のもと、直近 3～5 年の人口の増減より変化率を、出産適齢（通常は 15～49 歳の間）の女性人口と 0 歳人口の比率である子ども女性比（出生率として使用）を算出し、これらを各年繰り返し掛けあわせることで将来の人口の推計を行う。

◆サロン（さろん）

身近な地域で、市民やボランティア等が協働で企画・運営している仲間づくりの活動。高齢者や障害のある人、子育て中の人などの交流の場として活用されている。

◆文化財（ぶんかざい）

広義の意味では、人間の文化的、生活的活動によって生み出され、残されているもののうち、特に歴史的、文化的価値の高いもののこと。

本ビジョンにおいて主に用いている意味としては、文化財保護法第 2 条および日本の地方公共団体の文化財保護条例において規定されている「文化財」のことを指す。このうち、兵庫県によって指定される文化財を「県指定文化財」、加西市によって指定される文化財を「市指定文化財」という。

◆優良農地（ゆうりょうのうち）

一団のまとまりのある農地や、農業水利施設の整備等を行ったことによって生産性が向上した農地など、良好な営農条件を備えた農地のこと。

2. ももこのビジョン策定に関わった方々

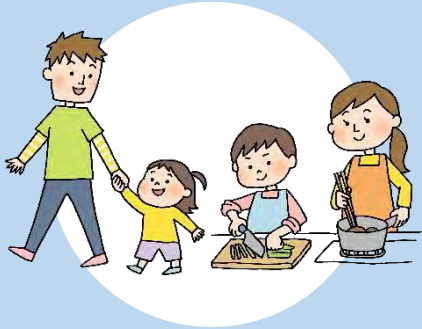
ももこの11（イレブン）（富合地区ふるさと創造会議）



富合地区がこの先もずっと豊かな地域であってほしいという想いのもと、ももこの11が主体となって本ビジョンを策定しました。

普段から地域で活動している方々が連携・協力することで、もっと住みよい富合地区の実現を目指して取り組んでいきます。

兵庫県立大学杉山ゼミ



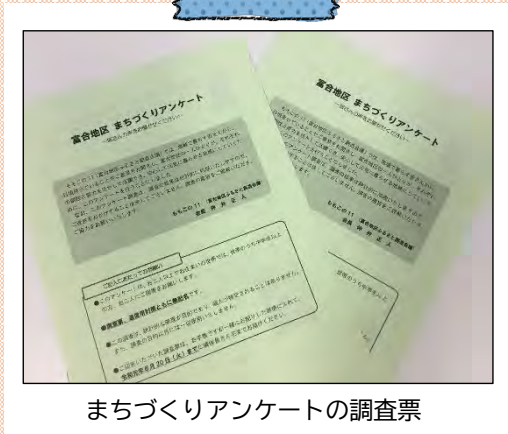
兵庫県立大学環境人間学部准教授の杉山武志先生と、先生の開催するゼミに所属する学生のみなさんに、ビジョン策定のためのヒアリング調査やワークショップの開催などご協力いただきました。また、ももこのサロンが開催するイベントにも参加していただきました。

富合地区で暮らしている方々



本ビジョンの策定にあたり、まちづくりアンケート調査やヒアリング調査、ワークショップなど、様々な機会をとらえて住民のみなさんのご意見をいただきました。

3. ももこのビジョン策定の様子



まちづくりアンケートの調査票

半数以上の方にご回答
いただきました。
ありがとうございました！

杉山ゼミのみなさんが
富合地区を回って
ヒアリングを行いました



ヒアリング調査の様子その1



ヒアリング調査の様子その2

ちゃんとヒアリング
できるかな…



ワークショップの風景

杉山ゼミのみなさんと一緒に、
富合地区の未来について考える
ワークショップを行いました

発表うまいなあ…



グループで検討したことを発表

富合地区で暮らす
みなさんに、
ももこのビジョンの内容を
説明しました



ももこのビジョン住民説明会

放課後に集まれる場所や、
大人とも交流できる場所
が欲しいです！



子ども会議での発表

ももこのビジョン 2040

発行日：2020（令和2）年2月

発行：富合地区ふるさと創造会議「ももこの11（イレブン）」



ももこのビジョン2040

自然が豊かで みんなも豊かな 安心と協力の地域 とみあい

～人と人とのつながりで、今と未来を創りだそう～